

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学部の専門領域〔聖書学(旧約聖書学・新約聖書学)、歴史神学、組織神学(宗教哲学を含む)、実践神学〕とその内容について学部の内外に周知を図ると共に、神学部の理念・目的との関連について定期的な検証を行う。	→履修モデルの作成と公開(WE B等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載])	C	C	B	A	/
2. 上記専門領域を基礎とした履修コース(キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース)それぞれの意義付けを、カリキュラム編成に生かす。	→コース名称の変更とカリキュラムの改訂(ともに2011年度までに)	B	A	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	コース別の「履修モデル」、それを補完するものとして専門領域別の「履修が望ましい科目」を作成している。またそれらは『履修の手引』やWE Bサイトを通じて学生へ提示、履修計画に活かされることで一応の目標達成をみている。次なる試みとして、専門領域と設置科目・専任教員との関連を検証しており、結果として2012年度に専門領域の再編成〔聖書学(旧約聖書学・新約聖書学)、歴史神学・キリスト教文化、組織神学・キリスト教思想、実践神学〕を行った。領域についてはカリキュラム研究委員会(学部)などで引き続き議論している。
目標2	履修コース名称を実態に則した名称に変更した(「キリスト教神学・伝道者コース」→「キリスト教伝道者コース」)。また、それに伴うカリキュラムの改訂はすでに完了し、2011年度から適用を開始している。履修コースを意識したカリキュラム編成については、カリキュラム研究委員会(学部)などにおいて、専門領域と関連しつつ継続的に議論している。
備考	